



ROAD No.25

編集・発行：
上智大学教育学科同窓会

2019年度 教育学科同窓会 会員大会 11月9日（土）に開催

- 講演会・会員大会
 - 懇親会
 - 会場
 - 懇親会費
- ・・・ 午後2時～午後3時45分（午後1時30分 受付開始）
 - ・・・ 午後4時～5時45分
 - ・・・ ソフィアンスクラブ（ソフィアタワー6F）
 - ・・・ 3,000円（現役生は無料） ※ 当日受付でお支払いください。

二〇一九年度 会員大会 講演会
「少年院の実態や少年たちとの交流、更生の様子を通して思うこと。」 — 現場一筋二五年、少年院の実情、少年犯罪の変化 —

講師 細川 英志さん（法務省 少年院法務教官）一九九二年卒

細川英志さんが教育学科を卒業した一九九三年三月は、バブル景気崩壊が直撃し、大学生の就職状況が急変。

そんな中、細川さんは民間企業に目もくれず、あるきっかけで難関の国家公務員試験に挑んだ。とは言え、受験を決意したのは卒業年度の四月と遅かった。しかし、法務省一種教育職と二種相当の法務教官に見事一回目の受験で合格。細川さんは自身の「高校時代の経験」から（この点は講演で語って頂く）少年院での勤務を志し、希望通りに配属される。以来、北は栃木、南は大分まで六箇所の少年院で法務教官として少年たちの指導にあたってきた。

いま、細川さんは、少年院に入院している少年たちに大きな変化を感じているという。それは少年たちの「マイルド化」。はたして「マイルド化」とは一体何か？
また、少年たちが犯した罪では「オレオレ詐欺の受け子」が急増

中。「受け子」を引き受ける少年が増えた背景とその手口とは？
少年たちは罪を悔い改め、更生するののか？

さらに現在、少年法の年齢引き下げの議論が続いていることをご存じだろうか？ 少年法の適



用年齢を現行の「二〇歳未満」ではなく「一八歳未満」への引き下げること等が審議されているが、その意味は？

職務上、守秘義務があり、お伝えできる内容には制限があるものが多い。しかし、少年院の実態や少年たちとの交流、更生の様子など、現場で長く勤務してきた教育学科卒業生が「生」で語るから

こそ、お伝えできる内容が講演会では予定されている。

是非、講演会に足を運んで頂き、犯罪から見える少年の「いま」を共に知り、考える機会としたい。

【講師からのメッセージ】
大学を卒業して二五年経ってしまいご無沙汰しております。このような機会を与えていただきありがとうございます。普通に生活している分には縁がない少年院という世界の一端を紹介させていただきます。いただければと思っています。

◇会員大会・アジェンダ◇

（一五時二〇分～一五時四五分）

記

- 一、開会宣言
- 二、活動報告（長尾会長）
- 三、組織委員会報告（赤松副会長）
- 四、会計報告（会計委員会）
- 五、会計監査報告（監事）
- 六、閉会宣言

以上

二〇一八年度 教育学科同窓会会員大会 講演会報告

「グローバル化時代の学びを考える」・教育の哲学と実践の間で

講師 上野 正道さん（上智大学総合人間科学部教授） 一九九八年卒

昨年一月一日（土）に、二〇一八年度の教育学科同窓会会員大会が、新ソフィアンズクラブで開催されました。講演会の講師には、今年度より上智大学教授に就任された上野正道先生をお迎えしました。私たちの同窓生が、教授となって本学に戻って来られる、そんな嬉しい知らせに、今年度の講師は是非とも上野先生にということ、講演会をお引き受けいただく運びとなりました。

上野先生は、昨年度まで大東文化大学において、小学校の教員養成課程等を受けもっておられたこともあり、その中で多くの小学校での授業視察をされたご経験等も踏まえつつ、一九八〇年代後半以降の学校教育の変遷について、様々な角度からお話をしてくださいました。

ここ約三〇年の学校教育の流れをマクロの観点から俯瞰すると、小中学校においては福祉教育に環境教育、そして食育も何でも大切と言わんばかりに、常に新



講演会開始にあたり、自己紹介を少し多めに！

しいものを次々に取り入れることに力が注がれ、教育実践の成果よりも理念が優先される傾向が顕著であったというところからお話が始まりました。そのような中で、二〇一五年の中教審による「論点整理」では、より一層のグローバル化、また高度な情報化や技術革新が進む大きな変化の過程において、小中学校や大学で何をどう学び、またその知識をもって、どのようにこれから生き抜いていくかということにそのフォーカスが移行してきたこと等が言及されている点を取り挙げられました。

次に、ではそこで、なぜ「二一世紀型の学び」が求められるよう

になったのかと話は進んでいきます。現在の子どもたちが、今後の予測困難な不確実性の時代をどう生き抜いていくのか、一九世紀、二〇世紀型の産業主義社会における学びは、知識量・思考・ルール等があればそれで十分であったのが、二一世紀のポスト産業主義社会における学びでは、従前のそれらに加え、より高度な知識・コミュニケーション能力、また様々な事象をデザインしていく能力といった「知識の質」が求められるように変化してきたとの分析を示されます。

かつての受験競争の過熱化、学歴偏重、詰込み教育への批判にはじまり、校内暴力に学級崩壊、いじめや不登校問題などが、顕在化社会問題化していったのが、ここ約三〇年の学校教育のあゆみだったと言えます。文科省も、その反省等から、一九八九年の学習指導要領改訂では「新しい学力観」という理念を打ち出し、続く一九九八年の同改定では、「生きる力」という標語で、自ら考え学ぶ力や主体的な判断の重要性にスポットを当てながら、続く二〇〇八年の同改定では知識基盤社会を形づくるべく、批判の対象となったいわゆる「ゆとり教育」からの脱却や、小学校英語や小中一貫教育の導入を提唱する等、上野先生のお話から変容し続ける学校教育の有り様をテンポよく理解することができました。



同窓生も真剣に聴き入る講義の皆さん、

ここで上野先生が強調されたのは、「ゆとり教育」の見直しは、決して詰込み教育への回帰を意味するものではなく、獲得した知識、技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身につけることへの転換を図ることに、より力点を置いたということでした。

また、大学入試改革の分野では、在外の学校学期制も意識し、九月入試の増加により二月期への一極集中は、今後さらに減少傾向が続くだろうとの見方を示されま

した。大学入試の在り方が変われば、それにもなつて、学力の在り方も変わっていくかざるを得ないのは必然的だと、改めて感じた次第です。

最後に、上野先生が大学時代に、高祖先生から課された「ルソーは、子どもを発見したのかどうか？」という試験問題を取り上げられ、研究者であってもこの問いに答えるのは決して容易なことではないとしながらも、それでもなお問い続けていくという姿勢こそが大切と強調されました。学校では、未だにできたかどうかが重要視される傾向が強く、でも分らないことを分らないなりに考へ、共有するところに、学問の真の面白さがあるというのが上野先生の意図するところであり、それがあからこそ、自分の考えをより深めていくことも可能になるのではないかと、学び続けることの大切さに触れられ、まとめられました。

至近三〇年の学校教育の変遷を、当時支配的であった教育理念と、今後必要とされるであろう学力との両軸から、うまくお話をまとめていただき頭の中がとてもスッキリした、そんな上野先生の講演でした。

（文責・黒木 健）

田中治彦先生

「最終講義・感謝の会 実施報告」

松倉 紗野香 (大学院総合人間科学研究科 教育学専攻博士前期課程一年)

二〇一九年三月二日(土)、四谷キャンパスの六号館にて田中治彦教授の最終講義が開催されました。

当日は、上智大学の在校生・卒業生のみならず、田中教授が長年続けられてきたコミュニケーション・レゾの受講生やMOEで関わった方々の姿もあり、教授の活動の幅の広さを表していました。

「ユースワーク・開発教育研究の軌跡」というタイトルで最終講義が行われ、田中教授の子ども時代のお話から、学生時代、そして研究活動について当時の写真を用いて紹介されました。

学生時代の「郵便友の会」での海外との文化交流や「東南アジア青年の船」への参加によるユースワークの活動について触れ、現在の研究テーマであるSDGs(持続可能な開発開発目標)と教育につながるまでの経緯について講義されました。

教授は、「自身の研究生生活につ

いて「いつも若者の関心や動向に着目してきたからこそ、時代を先取りした研究を進めることができた」と振り返り、SDGsにつながる開発教育や、一八歳選挙権・一八歳成人につながるユースワークの研究など常に時代を先取りする形で研究活動を進められてきた、とお話されました。



ユーモアを交えながらも真摯な語り口の田中先生

その後、会場を二号館の教職員食堂に移しての「感謝の会」においても多くの関係者のみなさまにご出席いただきました。総合人間科学研究科委員長の岡田教授からご挨拶をいただき、終始、田

中教授を囲み、明るい声と笑い声が飛び交う会となりました。

会の中では、ゼミに所属していた卒業生の方々が思い思いの企画を催し、クイズや教授との思い出のエピソードを交えて参加された方々との交流の場をつくり、会場をより一層、盛り上げていただきました。

最終講義・感謝の会ともに、田中教授のあたたかく、ユーモア溢れるお人柄を感じ取ることで、きるとても明るく、そして和やかな時間を過ごさせていただきました。

学科新教員紹介

教育学科では、本年度新たに二人の教員を迎えました。相澤真一准教授は、中京大学から異動して四月に着任。専門は教育社会学で『「高卒当然社会」の戦後史』、『子どもと貧困の戦後史』、『His School for All in East Asia: Comparing Experiences』などの



本を著しています。社会の変動と教育の平等性との関連を、歴史社

会学、計量社会学などのアプローチにより取り組んでいます。

なお、教育社会学を担当していた酒井は新設された学校臨床社会学の担当となり、学校現場の様々な問題を扱います。

もう一人はMaria Manzon(マリア・マンゾン) 准教授です。香港



教育大学から本学に九月に着任。比較教育学が専門で Comparative Education: The Construction of a Field or Origins and Traditions などの著書があります。比較教育学の学説史を研究されており、アジアにおける学校への保護者参画の問題や道徳教育における女性の役割の問題などについても関心を持っています。

本年度の最も大きな変化は、クォーター制(四学期制)の部分的導入と、百分授業の開始です。教育学科でも一部のゼミや講義で、クォーター制を採用入れ、留学などがより容易になるように努めています。

また、二〇二〇年秋学期からは、Sophia Program for

Sustainable Futures (SPF) という新プログラムが始まります。授業はすべて英語で、教育学科でも学生を受け入れる予定です。マンゾン先生はこのプログラムの主担当として招聘しました。(教育学科長 酒井朗)

訃報

尾形利雄先生

二〇一八年八月三日、肺炎のため逝去。九六歳。

一九五五年東京大学大学院教育学専攻修士課程修了。日本大学勤務(助教教授まで)を経て六十六年上智大学に教授として着任。担当は日本教育史。八七年特遇教授、八八年名誉教授。

平野智美先生

二〇一九年一月二五日、心不全のため逝去。八六歳。一九六一年広島大学大学院教育学専攻博士課程修了後、六三年に上智大学に講師として着任。担当は教育哲学。六八年助教教授、七二年教授。九八年特別契約教授、二〇〇〇年名誉教授。



☆☆2018年度「上智大学教育学科同窓会」活動報告☆☆ 《2018年6月1日～2019年5月31日》

- ① 2018年07月07日(土) 15:00～17:30 会員住所名簿更新対応会議
- ② 2018年09月22日(土) 13:00～18:00 役員会／運営会議
- ③ 2018年09月29日(土) 13:00～17:30 ROAD 発送作業、役員会／運営会議
- ④ 2018年11月10日(土) 14:00～18:00 「教育学科同窓会 講演会・会員大会・懇親会」
- ⑤ 2019年01月19日(土) 14:00～17:30 ROAD 返送分整理作業、役員会／運営会議
- ⑥ 2019年03月25日(月) 13:00～15:00 「学位授与式」(学科単位参加:同窓会からのご挨拶と記念品贈呈)
- ⑦ 2018年04月20日(土) 15:00～17:30 役員会／運営会議

※ 各種行事等は、同窓会の皆さまの「終身会費 ¥10,000」にて運営されております。
まだ納入されておられない方は、この機会に是非ご協力をお願いいたします。

◇◇「上智大学教育学科同窓会」役員一覧◇◇ 《2018年6月1日～2021年5月31日》

- 会長 : 長尾 和洋(1986)
- 副会長 : 神林 達郎(1983)、赤松 加奈子(1987)
- 一般役員: 伊藤 奈美予(1977)、太田 尚子(1978)、栗原 峰夫(1982)、栗原 明子(1985)、石丸 達也(1986)
片桐 智樹(1991)、黒木 健(1993)
- 監事 : 手島 美智子(1978)、渡辺 智子(1985)

※ 以上、会長、副会長(2名)、一般役員(7名)、監事(2名)が、定例の運営メンバーとなります。役員募集中です!

上智大学教育学科同窓会 2018(平成30)年度 会計報告			
(平成30年6月1日～令和元年5月31日) (単位:円)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,614,181	事務局運営費	
会費		振込手数料	1,620
終身会費:銀行振込	30,000	会議費	900
終身会費:コンビニ振込	370,000	インターネットプロバイダ	13,500
同窓会参加費	90,000	会員大会関連	
銀行利息		講師謝礼	10,513
三井住友銀行	2	懇親会費	107,165
ゆうちょ銀行	1	会報関連費	
ソフィアパッチ売り上げ	14,400	ROAD印刷代	15,700
小計	504,403	発送用封筒他	46,282
		輸送交通費	
		発送料	195,652
		会費集金事務関連	
		コンビニ振込用紙作成	108,152
		集金事務手数料関連	25,378
		慶弔費	
		卒業祝(シャーボ)	25,044
		平野先生ご葬儀生花代	16,200
		ソフィアパッチ購入費	28,800
		小計	594,906
合計	2,118,584	繰越金	1,523,678
		合計	2,118,584
上記の通り平成30年度の会計を報告いたします。 令和元年9月1日 会計担当 : 太田 尚子			
上記の会計報告書を監査した結果、正確かつ適正であることを認めます。 令和元年9月1日 監事 : 手島 美智子・渡辺 智子			

【会計担当役員からのお願い】

同窓会の繰越金は、毎年減少の一途となっております。
会報誌「ROAD」の作成・発送、「講演会・会員大会」の実施その他は、
全て同窓会会員の皆さまの「終身会費」のみに支えられています。
「終身会費」は、既に多くの同窓会会員の皆さまから納入をいただいておりますが、その割合は未だ十分とは言えないのが実情です。
お一人でも多くの皆さまからの納入をお願い申し上げます。
(会計担当役員 太田 尚子)

上智大学教育学科同窓会報 **ROAD** 第25号
発行: 上智大学教育学科同窓会 責任者: 会長 長尾 和洋
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1
上智大学総合人間科学部事務室内
TEL: 03-3238-3650 FAX: 03-3238-3980
ホームページ: <https://www.sophia-education-alumni.com/>
Facebookでも最新の活動をお知らせしています!

【 WANTED! 】

- ✓ お知り合いの同窓生に、「ROADが届かなくなった。」「そもそも届いていない。」等の方はいらっしやいませんか?
- ✓ 同窓会ホームページの「コンタクト・ページ」経由、または sophia.education.alumni@gmail.com まで、お名前(含旧姓)・ご住所・卒年をお知らせいただくよう、是非お伝えください。